

## 予算審査特別委員会厚生分科会

1 開会日時 令和2年3月4日(水)午後1時0分

2 閉会日時 令和2年3月4日(水)午後3時8分

3 会議場所 議会委員会室

4 出席委員

2番 大森 進次君      5番 光成 良充君      9番 原田 素代君

11番 松田 勲君      13番 福木 京子君      15番 岡崎 達義君

5 欠席委員

なし

6 説明のために出席した者

市長 友實 武則君      副市長 前田 正之君

副市長 川島 明昌君      市民生活部長 作本 直美君

保健福祉部長 入矢五和夫君      赤坂支所長兼  
市民生活課長 土井 常男君

熊山支所長兼  
市民生活課長 矢部 恭英君      吉井支所長兼  
市民生活課長 是松 誠君

市民課長兼  
協働推進課長 稲生真由美君      環境課長 大窄 暢毅君

社会福祉課長 原田 光治君      子育て支援課長 馬場 弘祥君

健康増進課長 石原万輝子君      介護保険課長 谷名菜穂子君

熊山診療所参事兼  
健康増進課参事 川原 達也君

7 事務局職員出席者

議会事務局長 元宗 昭二君      主査 細川 伸也君

8 審査又は調査事件について

1) 議第13号 令和元年度赤磐市一般会計補正予算(第5号)の厚生常任委員会所管部分

2) 議第20号 令和2年度赤磐市一般会計予算の厚生常任委員会所管部分

9 議事内容 別紙のとおり

午後1時0分 開会

○分科会委員長（光成良充君） お疲れさまです。

それでは、ただいまから予算審査特別委員会厚生分科会を開催いたします。

これから、分科会の審査に入りますが、当分科会の審査対象は議第13号令和元年度赤磐市一般会計補正予算（第5号）の厚生常任委員会所管部分及び議第20号令和2年度赤磐市一般会計予算の厚生常任委員会所管部分の2件でございます。

それでは、議第13号令和元年度赤磐市一般会計補正予算（第5号）の厚生常任委員会所管部分についてを議題とし、これから審査を行います。

執行部からの補足説明がありましたらお願いいたします。

なお、説明につきましては、補正予算書及び説明資料のページ番号を言ってから行うようにお願いいたします。

○市民生活部長（作本直美君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 作本部長。

○市民生活部長（作本直美君） 補足説明でございますが、環境課からさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

○環境課長（大窄暢毅君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 大窄課長。

○環境課長（大窄暢毅君） それでは、環境課から議第13号令和元年度赤磐市一般会計補正予算につきまして、補足説明をさせていただきます。

補正予算書は22ページをお願いいたします。あわせて、説明資料では14、15ページの中段あたりをごらんください。

4款衛生費、1項清掃総務費、19節負担金、補助及び交付金の和気赤磐し尿処理施設一部事務組合負担金でございます。375万7,000円を増額補正させていただくものでございます。これは、今年度ふれあい公園の下水道接続の工事に伴いまして、既存の浄化槽を撤去する際の汚泥の処理に係る負担金が発生しましたので、負担金の増額補正をさせていただくものでございます。

また、2目塵芥処理費、11節需用費におきましては、環境センターで今年度焼却施設に使用している部材製品が大変安価に購入できました。また、効率的な修繕などを実施することによりまして、修繕料を実績見込みによる3,000万円の減額補正とさせていただいております。また、18節備品購入費につきましては、本年度ごみ収集用の3トンパッカー車を入札により購入予定としておりましたが、応札がなく入札不調ということで執行できませんでしたので、その購入費及びフォークリフト、こちらは購入できましたが、購入に係る入札執行残金を合わせて合計1,209万9,000円を減額させていただくものでございます。

そのほかにつきましては、本会議場での説明のとおりでございます。

以上、御審査のほどよろしくお願ひいたします。

○保健福祉部長（入矢五和夫君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 入矢部長。

○保健福祉部長（入矢五和夫君） 保健福祉部関係では、議場で説明したとおりでございます、よろしくお願ひします。

○分科会委員長（光成良充君） それでは、これから質疑を受けたいと思います。

質疑につきましても、補正予算書及び説明資料のページ番号を言ってから、質疑に入りたいと思います。

それでは、質疑はございませんか。

○委員（岡崎達義君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 岡崎委員。

○委員（岡崎達義君） 先ほど、衛生費の清掃費の2項清掃費の先ほどのパッカー車の件なんですけど、入札が不調になったということで減額になってるんですが、このパッカー車を購入しないということなんですか、それともまた新たに入札をして購入するような予定にしてるわけなんですか。そこらあたりはどうなんでしょうか。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○環境課長（大窄暢毅君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 大窄課長。

○環境課長（大窄暢毅君） 今年度行いました入札でございます。こちら、一般競争入札によりまして、2回行っております。と申しますのが、1回目が一般競争入札によってかけましたが、こういった特殊車両でございます、車両手配とか市場の関係もございまして、今回応札がなくて不調ということで、第2回目は範囲を広げまして、仕様等そのまま範囲を広げまして入札をかけましたが、そちらにつきましても不調となっております。

後ほど御審査いただきたいと思いますが、令和2年度の当初予算にも計上させていただいて、今後も購入のほうを進めていきたいと考えております。

以上です。

○分科会委員長（光成良充君） 岡崎委員。

○委員（岡崎達義君） その不調になったって原因は何かというのはわかってるんですか。それと、今度また入札の予定があるということなんですか、もっと範囲を広げるといことなんですか。そこらあたりの詳しいことをお願ひします。

○環境課長（大窄暢毅君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 大窄課長。

○環境課長（大窄暢毅君） 御質問にお答えします。

入札不調になったということの原因の分析でございます。例年どおり7月ごろ入札をかけま

したところ、市場の状況等がありまして、業者のほうがなかなか対応してもらえるところがなかったということで考えております。この対策としまして、令和2年度予算に計上させていただきまして、今年度は早急に準備して4月の早い段階で入札をかけていこうと思っております。仕様については、当初の仕様のままいこうかなあというふうに今のところは考えております。

以上です。

○委員（岡崎達義君） ありがとうございます。

○分科会委員長（光成良充君） 他にございませんか。

○委員（福木京子君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 福木委員。

○委員（福木京子君） 15ページ。

○分科会委員長（光成良充君） 予算書15ページ。

○委員（福木京子君） 一番下の給食費（副食費）が189万円入ってるんですけど、これは保育料無償化に伴って給食費だけ集めるということで、その金額なんですか。それで、人数的にどのくらいの人数なんですか。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 馬場課長。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 福木委員のおっしゃられるとおり、幼児教育・保育無償化の関係で、今まで保育料の中にありました副食費分を別途10月以降納めていただくということで、補正計上したものでありますけれども、9月の補正のときに保育料の一部ということだったので負担金で当初上げさせていただいてたんですけれども、その後国の通知等により、負担金ではなくて雑入ということで収入をしないといけないということになりまして、ここで組み替えをさせていただいて、10月以降、3月までの給食費、副食費分を計上させていただいております。

○分科会委員長（光成良充君） よろしいですか。

福木委員。

○委員（福木京子君） これは何名分ぐらいの、給食費なんですか。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 馬場課長。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 70名分になります。

○分科会委員長（光成良充君） 70名分。

よろしいですか。

○委員（福木京子君） はい。

○分科会委員長（光成良充君） 他にございませんか。

○分科会副委員長（原田素代君） はい。

○分科会委員長（光成良充君） 原田副委員長。

○分科会副委員長（原田素代君） 今の関連ですけど、副食費が雑入ってという扱いが、これは国の指導なんですか。ちょっと釈然としませんが、雑入ってという扱い、これはずっと雑入扱いで副食費がここで処理されるんですか、確認させてください。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 馬場課長。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 9月の補正の時点では保育料の一部ということで負担金として副食費分を考えておりましたけれども、国の通知により負担金はふさわしくなく、雑入で収入すべきという通知が出ましたので、今回負担金から雑入に変更させていただいています。令和2年度の予算につきましても、同じく雑入で組んでおります。

以上です。

○保健福祉部長（入矢五和夫君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 入矢部長。

○保健福祉部長（入矢五和夫君） 保護者からいただく実費分というイメージで、それを材料にするから市の収入ではなくて雑入、一遍ここに入れるところが雑入が適正であろうというようなことで、市のもうけとしてではなくて、実費を一遍預かって、それを材料費に充てるというようなイメージで雑入が適当だろうということでございます。

○分科会副委員長（原田素代君） わかりました。

○分科会委員長（光成良充君） 他にございませんか。

○委員（福木京子君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 福木委員。

○委員（福木京子君） 20ページの地域振興費、財源更正になつとるね。財源更正になつてるんですけど、何か説明ではふるさと納税の中の福祉分野の説明があったと思うんですけど、この関係じゃないかなと。

○分科会副委員長（原田素代君） どこ。

○委員（福木京子君） 9の地域振興費を見たら、財源更正になつてるんですけど、説明は、ただふるさと納税の中に福祉分野のことが入ったようなことを本会議で答弁されとった。そこはどう考えたらいいんですか。補正前の額はゼロ円じゃね、補正額はゼロ円となつとるんですけど、ちょっとその説明を。ふるさと納税の中に福祉分野を使ってくださいということなんですか。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○市民生活部長（作本直美君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 作本部長。

○市民生活部長（作本直美君） こちらの地域振興費ですが、予算説明資料では12ページ、13ページのところに書かれております。協働のまちづくり推進事業に企業版ふるさと納税寄附金を充当されたということですが、申しわけございません、これが政策推進課のほうで担当で財源として充当されているものでございまして、事業そのものは若者のまちづくり事業に恐らく充当されていると伺っております。詳しいことはちょっとこちらでは把握できておりませんので、よろしく御理解いただきたいと思います。

○委員（福木京子君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 福木委員。

○委員（福木京子君） 財源更正としてるんで、一般財源をマイナスにして、その他が100万円こっちに移ってますね。そういうことで、こちらの厚生の関係で若者のまちづくりに使うということなんですか。財源更正、どういうふうに考えたらいいですか、これ。

○市民生活部長（作本直美君） はい。

○分科会委員長（光成良充君） 作本部長。

○市民生活部長（作本直美君） 企業版ふるさと納税の寄附金は、いろいろな用途、市の事業に充当していかれてると思います。その中で、適正な部分に政策推進課がこの事業に充当するのが適切であろうということで、今回は若者のまちづくり事業に充当されたと考えております。

○分科会委員長（光成良充君） 他にございませんか。

○分科会副委員長（原田素代君） はい。

○分科会委員長（光成良充君） 原田副委員長。

○分科会副委員長（原田素代君） 説明資料の13ページのところの児童福祉施設費、007の周匝、その下の黒本、その下の佐伯北、その下の仁美も入るのかな、人件費が減額ですね。せんだってば、3人ぐらい補充ができたという話も聞きますが、それぞれの保育園で何人おやめになったのか、もしくは募集したけど入らなかった人数が何人なのかをまずお聞きします。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 馬場課長。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 臨時職員の雇用につきまして、確保できなかった職員がありましたので、今回賃金、社会保険料等を減額させていただいてるんですけども、各園で申しますと、まず周匝保育園、こちらは臨時保育士1名です。それと、臨時の調理員1名の計2名です。続きまして、黒本保育園ですけども、こちらは不足は臨時調理員1名です。続きま

して、佐伯北保育園ですけれども、臨時保育士1名と臨時調理員1名、計2名です。

以上です。

○分科会副委員長（原田素代君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 原田副委員長。

○分科会副委員長（原田素代君） 仁美保育園の派遣委託料の減額は何ですか。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 馬場課長。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 派遣委託料につきましても、保育士の確保のために予算を計上しておりましたけれども、確保できなかった点がありまして、今回減額させていただいております。

○分科会副委員長（原田素代君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 原田副委員長。

○分科会副委員長（原田素代君） 都合保育士が3名と調理員が3名、昨年の中では減っていて、それぞれ都合6人ですけど、正規の方がおやめになったということはないのですか。ちょっとそこをまず確認させてください。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 馬場課長。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 正規の職員で令和元年度中に退職した職員は、保育士で2名おりました。

○分科会副委員長（原田素代君） どこか。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 佐伯北保育園です。2名とも佐伯北保育園でした。

○分科会委員長（光成良充君） いいですか。

○分科会副委員長（原田素代君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 原田副委員長。

○分科会副委員長（原田素代君） 実は、大分以前から赤磐市の中の保育士問題というのが深刻だということは、この委員会でもいろいろ議論をしてきました。2年前ですか、議会報告会の中で委員会としての課題になるだろうということで、1年間保育士問題について委員会としても調査研究もし、報告もし、やってまいりましたが、一向に現状の保育士の状況が改善されない状況だと深刻に受けとめております。実は、馬場課長にも入矢部長のほうにも現状認識の問題から、働く人たちのカウンセリングの対応が今の赤磐市の保育士の中に必要ではないかという提案もしてきてるんですが、この結果を見ると、かなり私は思っていた以上に保育士2人が、佐伯北保育園で保育士2人がやめるってことは、何人保育士がいるのか知りませんけ

ど、かなりのダメージですよね。それで、派遣を求めても派遣も来てくれなかったっていう、この深刻さに対して、私はそういうカウンセリングのシステムを取り入れたらどうかという提案をしたんですけど、執行部のほうでまだそういうことはおやりになってないようですから、これどういうふうにしようと思ってるんですか。対策を考えてらっしゃるのかどうか、どういう対策なのか、教えてください。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 馬場課長。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 原田委員がおっしゃられるように、カウンセリングという方法ですけれども、子育て支援課としては公立の保育園等とも話をしまして、これは年度途中の10月からなるんですけれども、やめられた園長のOBの方を臨時で雇用しまして、各園を巡回して回ってもらっております。その先生の活用によって、特に新規採用の職員であるとか、年数が二、三年の保育士さんが赤磐市の公立保育園、こども園は多いんですけれども、そういった若い保育士さんの話を聞いてもらってる、そういうための臨時職員としての活用をカウンセリングという意味ではないかもしれないんですけど、今行ってる状況でございます。

以上です。

○分科会副委員長（原田素代君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 原田副委員長。

○分科会副委員長（原田素代君） それは何人お願いをしているのか。それから、2人やめたのは10月の以前か、以後か、教えてください。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 馬場課長。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 雇用してるOBの方は1名です。

それから、令和元年度に退職となりました保育士さんは1人は10月以前で、もう1人の方は10月以降です。

以上です。

○分科会副委員長（原田素代君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 原田副委員長。

○分科会副委員長（原田素代君） 予算委員会の席ですが、結果がこれだけの深刻な状態ですので、この間、入矢さんは3人ぐらい確保ができたというような話をされてましたけど、確保してもざるのように抜けていくような不安があります。だから、本質的な解決が要るということは、課長も部長も御存じのはずなんです。市長は一般論として、いやどこも苦勞してるから、うちも同じだとおっしゃるけど、やっぱりうちの特殊性があるんです。それを御存じなわ



けです、現場の方は。だから、それなりの手を打たないと、本当に子育てするならどころの騒ぎじゃなくて、保育士がいないから保育がとまっちゃうということだってあり得るぐらい、私は深刻に考えてます。私は、ただカウンセリングって無責任に言ってるだけですから、ある意味、そりゃ現場のほうはもっといろいろ知恵を絞ってくださらないと進まないと思いますけど、この数字っていうのを私は深刻に捉えています。そして、根本的な対策が必要だと思っておりますが、部長と市長のそれぞれの見解はどういう見解なのか、お聞かせください。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○市長（友實武則君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 前にも答弁しましたが、各職場のそれぞれの職員が働く中で、さまざまな思いもあろうかと思えます。職員が働きやすい環境づくりというのは、委員の御案内のとおりです。そのための風通しのよい職場づくり、これを保育園現場でも目指していきたいと思っております。これについては、担当部署のほう、それから総務のほう、タイアップをして対応を図ることにしております。

以上です。

○保健福祉部長（入矢五和夫君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 入矢部長。

○保健福祉部長（入矢五和夫君） 委員からはカウンセリング等のアイデア等もいただきまして、市としてはOBで経験のある方にいろいろ回っていただいて、若い保育士を中心にいろいろなことを聞いて回ろうと、若い方じゃなくて、いろんな意見を聞いて、それを反映できたらなというふうに思って、そういう方向で進めております。

また、来年につきましては、職員を3名ということで、先ほどもお話ししたんですけど、保育士さんを募集しまして、正職さん、そちらのほうは確保できたということで、今年度においても、やはり最低人数は確保はできているんですけども、少しでも余裕を持った保育ができるようにということで、臨時さんのほうはずっと募集をしておりました。6名程度の募集でしたが、なかなかそれも来てくださらなかって、何人かは来てくださったんですけど、それで今回の予算の減額もお願いしとるところでございます。今後も、しっかりいろんな方から、職員からもしっかり意見を気持ちを聞きながら、職員もそういうことで現場のほうの声を聞きながら、改善できる場所があればしていったって、少しでもよい環境にしていきたいというふうに思っております。

○分科会委員長（光成良充君） よろしいですか。

○分科会副委員長（原田素代君） もう直原さんが退職する前からですから、もうほぼ2年余り前から、この問題は深刻だという内部告発を受けてます。差しさわりがありますけど、詳しい事情を知ってる内部の方からいろいろ困ってるという話を聞いておりますので、差しさわり

がない中でどうかこの問題が解決されないかなあと思っております。このパワハラによって鬱になるという傾向の中で、やめていかれる方が何人もいたことも事実ですし、現在もまだそういう形で2人も正規がおやめになるという状況は、いまだもって内部の環境が改善されていないだろうと、すごくすごく深刻に思っています。本当に子供に向き合う保育士さんが元気で安心して働ける職場を目指してこそ、子育てするならあかいわ市であって、保育士が心を病むような職場環境は一刻も早く解決していただきたいんです。それが本当に子供たちに向き合う一番いい環境だと思っておりますので、引き続き努力していただきたいですし、引き続きそういう内部告発がある限り、やはりきちっとした対応を求めていきたいと思っておりますので、くれぐれもよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上です。

○分科会委員長（光成良充君） 他にございませんか。

○分科会副委員長（原田素代君） いいですか、もう1つ。

○分科会委員長（光成良充君） 原田副委員長。

○分科会副委員長（原田素代君） 今度は15ページなんです、し尿処理の施設運営負担金というのが今回上がっておりますが、これ事情について教えていただけますか。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○環境課長（大窄暢毅君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 大窄課長。

○環境課長（大窄暢毅君） し尿処理の一部事務組合の負担金でございます。

これは、先ほどお話しさせていただきましたとおり、負担金が増額されたものに伴いまして、今回増額補正をさせていただくものでございますが、ふれあい公園の下水道接続の工事……。

○分科会副委員長（原田素代君） あ、ごめん、聞きました。

○環境課長（大窄暢毅君） がありまして、その工事をするに当たりましての既存浄化槽の中にある浄化汚泥の……。

浄化汚泥につきましては実際の量に対しての分担金ということに、実績払いということになってますので、こちらを見越しての増額補正ということでございます。

以上です。

○分科会副委員長（原田素代君） 大変失礼しました。ありがとうございました。

○分科会委員長（光成良充君） 他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会委員長（光成良充君） では、なければこれで質疑を終わります。

続いて、議第20号令和2年度赤磐市一般会計予算の厚生常任委員会所管部分を議題とし、これから審査を行います。

先ほどの補正予算と同じように、説明についてはページ番号を言うてから行うようにしてください。

○市民課長兼協働推進課長（稲生真由美君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 稲生課長。

○市民課長兼協働推進課長（稲生真由美君） 補足説明をさせていただきます。

令和2年度赤磐市一般会計予算の市民課の主なものにつきまして御説明させていただきます。

歳出でございます。

予算書は53ページ、説明資料は38ページでございます。

2款総務費、3項1目戸籍住民基本台帳費ですが、対前年度比1,088万6,000円、9%の増額となっております。増額の主な要因でございますが、まずは会計年度任用職員、いわゆる臨時職員に係る報酬4名分のうち、2名分について総務課の総務管理費から組み替えたこと、それから雇用形態の変更により、社会保険料などの増額によるものです。また、19節コンビニ交付センター運営負担金についても、総務課管理費から組み替えております。さらに、戸籍法の一部改正をする法律、及びデジタル手続法の施行を受けまして、準備の一環として必要な戸籍システムの改修などを計上したためでございます。

次に、予算書59ページ、予算説明資料42ページからになります。

3款民生費、1項1目社会福祉総務費ですが、28節に国民健康保険特別会計への繰出金3億5,075万7,000円を計上しております。その内訳でございますが、説明資料45ページに記載しております。

続きまして、予算書62ページの高齢者福祉費でございます。28節の後期高齢者医療特別会計繰出金ですが、1億4,267万円の内訳としまして、保険基盤安定負担分といたしまして、これは保険料軽減分でございますが、1億3,085万7,000円、また事務費分といたしまして1,181万3,000円を計上しております。

市民課は以上でございます。

続きまして、協働推進課の令和2年度予算の主なものにつきまして御説明させていただきます。

歳出でございます。予算書59ページをお願いします。

3款民生費、1項1目社会福祉総務費でございます。19節の負担金、補助及び交付金に保護司会、更生保護女性会の補助金を前年度と同額を計上しております。

続きまして、64ページをお願いします。

8目人権啓発費でございますが、前年度と比べまして140万7,000円の増額となっております。今年度は、県の委託金を活用いたしまして、2年ごとに開催しております男女共同参画講演会を実施する予定にしております。また、令和3年度に改定予定の男女共同参画推進計画に

向けて、男女共同参画の意識調査も行う予定にしております。

次に、66ページでございますが、9目地域振興費、13節委託料の一番下、協働事業委託料220万6,000円でございます。これは、平成29年度から実施しております若者まちづくり推進事業の企画運営委託費用を計上しております。

以上、簡単ではございますが、補足説明とさせていただきます。

○環境課長（大窄暢毅君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 大窄課長。

○環境課長（大窄暢毅君） それでは、環境課から令和2年度一般会計予算の主な事業、新規事業に絞りまして補足説明をさせていただきます。

予算書では75ページ、それから説明資料は62、63ページからになります。

来年度におきましては、新規事業といたしまして本会議及び当委員会において、以前より御要望等もいただいております火葬料金に対する補助金の交付事業といたしまして、4款衛生費、1項保健衛生費、3目環境衛生費、19節負担金、補助及び交付金の中に火葬補助金600万円、こちらを上げさせていただいております。制度の詳細等につきましては、現在歳出も含めて検討中ということではございますが、補助金の1件当たり平均2万円と推定した上で、申請者の対象を300人と考え、積算しております。これは、過去の利用状況を見まして、利用料金につきまして、火葬料金がほぼ4万5,000円もしくは3万5,000円といった利用者が多いという状況の中で、市民負担の基準を2万円と想定しまして、残りの2万5,000円と1万5,000円の平均から1件当たりの想定する平均補助金を2万円と算出しております。

また、補助件数につきましては、全体の年間火葬件数が約500件となります。そのうち、和気北部衛生施設組合及び柵原、吉井、英田火葬場施設組合の負担金算定基礎、区域の方の利用分を除いた件数が約300件となったためでございます。2万円掛ける300人で600万円を概算ではございますが、計上させていただいております。

なお、制度構築に当たりましては要綱等の整備、制度の周知等を慎重かつ丁寧に、さらに少しでも早く円滑に進めてまいりたいというふうに考えております。

それでは、予算書の77ページをお願いいたします。資料は65ページからとなります。

2項清掃費、2目塵芥処理費、13節委託料の中ほどにあります事業計画書作成委託料では、赤磐市における一般廃棄物処理基本計画の5年ごとの見直し時期となりますため、現状整理と課題の抽出及び実績値等の分析を行い、今後のごみ減量などの目標値等を掲げます、当該計画の改定を行うものでございます。394万7,000円を計上させていただいております。また、同目の18節備品購入費でございますが、先ほどもございました今年度未執行となりました家庭ごみ等の収集に活用いたします3トンパッカー車の更新に841万5,000円、1行戻りまして、15節工事請負費には資料67ページ中ほどにも記載してありますとおり、本年度施工いたしました旧廃棄物処理施設解体撤去後の土地の効率的かつ適正な維持管理を行っていくための舗装工事、こ

ちらの経費2,023万7,000円を計上させていただいております。なお、この舗装工事につきましては、今年度行いました解体工事と同様に合併特例事業債の対象事業ということで実施することとしておりまして、歳入予算に1,920万円を計上させていただいておりますので、あわせて御審査いただきたいと思っております。

環境課からは以上でございます。

○保健福祉部長（入矢五和夫君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 入矢部長。

○保健福祉部長（入矢五和夫君） それでは、保健福祉部関連につきましても、補足説明がございますので、よろしくお願いいたします。

○社会福祉課長（原田光治君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 原田課長。

○社会福祉課長（原田光治君） 社会福祉課から何点か補足説明させていただきます。

予算書のほうは58ページ以下でございますが、ちょっと説明が非常にしにくい面もありまして、予算説明資料のほうで説明させていただきます。予算説明資料の最初に43ページをお願いします。

3款民生費、1項社会福祉費、1目社会福祉総務費のところの003社会福祉協議会補助事業、全体で1億5,062万4,000円計上しております。比較で1,800万円余り増加しておりますが、主な内訳としましては、令和3年度からの包括支援センター委託に向けた人件費1人分の確保664万9,000円、それから吉井地区のホームヘルプサービスの体制強化ということで、これも内容的には人件費となりますが、385万9,000円、あと老人福祉センターの関係で温泉ポンプの交換時期が来ておりまして、こちらが809万3,000円と、これが主な増加要因となっております。

続きまして、同じく説明資料の45ページをお願いいたします。

一番上の熊山保健福祉センター管理事業におきましては、573万4,000円の減額となっております。この内容としましては、今回条例改正を上げさせていただいておりましたが、熊山保健福祉センターのデイサービス部門の業務委託がなくなるということで、544万6,000円の減額が主な要因となっております。

続きまして、同じページの下から2段目の004緊急通報システム事業、こちら本年度、昨年度と比較しまして406万6,000円の増加となっております。こちら、現在緊急通報システムは消防署の通信指令室に受令台を置き、緊急の場合の通報が直接消防署に入るようになっておりますが、こちらのほうのやり方を変えようと考えております。一旦、民間のそういう24時間体制で通信を受けてくれる、サービスしてくれるところにつなぎまして、そちらのほうから本当に緊急的なものに消防署につなぐような、そういった体制をとろうと考えております。こちら、そうした民間に委託しましても、24時間体制であることと、あと今の現状の緊急時の通報に加

えまして、心配事相談ですとか、あとは災害時の個別の連絡等、そういったサービスの状況と、あとはこちらの市の体制の軽減負担等、両方重ね合わせてとることができるということで、今回予算計上させていただいております。

続きまして、同じく資料の47ページをお願いいたします。

4目の障害者福祉費の一般管理費のところ、委託料に計画調査委託料を計上しております。こちら、3年ごとに見直しをしております第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画の見直し時期が更新が必要となりますので、そちらのための計画策定料を委託している関係で、比較しまして予算が増加しております。

続きまして、49ページをお願いします。

一番上の003障害者支援事業のところでは、比較で予算が1,000万円ほど増加しております。こちらの内容としましては、一番上の会計年度任用職員のところで、子ども・障がい者相談支援センターの職員人件費ということで、今年度までは副センター長の人件費を子育て支援課で計上しておりましたが、組み替えまして社会福祉課で計上ということで、その分の増員が360万円ほど、あとは委託料のところにありますが、日中一時支援としまして、子供の預かり事業の関係、すごく増加してきておまして、そちらが660万円の増加ということで1,000万円余りの増加となっております。

それから、その同じページの下から2段目の007自立支援給付事業のところでは、予算が3,000万円弱減額となっておりますが、こちら自立支援給付費の関係で前年度から今年度に向けまして、9%の増加を見込んでおりましたが、今年度実績見込み等々勘案しまして、思ったよりも伸びなかったという辺もありまして、予算計上を少し抑えてる関係で3.4%に減額となっております。

社会福祉課からは以上です。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 馬場課長。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 議第20号令和2年度赤磐市一般会計予算について、子育て支援課関係の主なものについて説明します。

前年度と比較して大きな変更の箇所ですけれども、保育園、こども園にかかわる歳入についてになります。

資料は予算書が19ページ、それから説明資料のほうは4ページ、5ページになります。

説明資料のほうの4ページ、5ページの一番下の行になりますけれども、款14分担金及び負担金、項02負担金、目02民生費負担金、児童福祉費負担金、保育所負担金の現年度分になりますが、8,456万8,000円計上しております。これは、無償化によるものですけれども、前年に比べて1億6,493万1,000円大きな減額となっております。

続きまして、新規の事業になりますけれども、予算書の23ページ、説明資料のほうは8ペー

ジ、9ページになります。

歳入で款16国庫支出金、項02国庫補助金、目02民生費国庫補助金、保育所等整備交付金になります。こちらは1億295万6,000円計上しております。説明資料のほうにありますように、国の交付金2億5,739万2,000円、これは事業の2年間分になるんですけれども、初年度は10分の4ということで2億5,739万2,000円に10分の4を掛けて、本年度の保育所等整備交付金1億295万6,000円を計上しておりますが、これにつきましては社会福祉法人岡山子ども協会が桜が丘地域で運営するあすなろ保育園を、老朽化による大規模改修とあわせて幼保連携型認定こども園として令和2年度から3年度にかけて施設整備を行うことが計画されており、施設整備にかかわる国の交付金の歳入として上げております。

引き続き、歳出の説明になりますが、予算書は70ページ、説明資料のほうは54ページから55ページになります。

歳出として、款03民生費、項02児童福祉費、目04児童福祉施設費、負担金、補助及び交付金として1億1,582万7,000円を計上しております。あすなろ保育園の改修にかかわる施設整備ですけれども、2年間の総事業費は6億2,176万円と計算されておまして、そのうち公費負担分が先ほど申しました国の交付金として2億5,739万2,000円、そして市の持ち出しとして3,217万4,000円となっております、今年度は国の交付金と市の持ち出しと合わせた2億8,956万6,000円のこれも歳入と同じく初年度は10分の4を掛けた額となります。補助金の額は、今年度は1億1,582万7,000円となります。事業の施設整備の国庫交付金の内示は、4月の予定となっております。あすなろ保育園がこの2年間で施設整備することによって、定員のほうは20名増を計画されております。

それから続きまして、予算書の67ページ、説明資料のほうも52ページから53ページになります。

款03民生費、項02児童福祉費、目01児童福祉総務費の負担金、補助及び交付金において、放課後児童クラブ補助金として1億5,329万3,000円を計上しております。前年比696万8,000円の増となっております、17クラブで計上しております。これは、1クラブ増分を含んでおまして、1クラブ新規開設となります。補助対象の予定となる新規のクラブですけれども、桜が丘西5丁目に4月に開所予定となっております。名称はM a n a B e e ' s クラブという名称で、事業の開始届は令和元年12月19日に届け出を市のほうに出していただいております、設置の認定につきましては令和2年1月14日で認定しております。クラブの支援員は、放課後児童健全育成の支援員2名、補助員1名の3名で運営される予定となっております。

以上、子育て支援課からの説明を終わります。

○健康増進課長（石原万輝子君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 石原課長。

○健康増進課長（石原万輝子君） 健康増進課より、令和2年度の一般会計予算の主なものに

ついて説明させていただきます。

2月の委員会でも説明させていただきましたが、昨年4月に開始しました3年間の時限事業の緊急風しん抗体検査等事業ですが、全国的に風疹の患者数が増加しており、その患者に風疹予防接種を受ける機会のなかった40代、50代の男性が多いということから、風疹の抗体検査、予防接種を無料で受けることとし、今年度も実施いたします。

歳入につきましては、予算書23ページ、説明資料8ページ、9ページ、16款国庫支出金、2項国庫補助金、3目衛生費国庫補助金、緊急風しん抗体検査等事業272万3,000円です。

歳出につきましては、予算書74ページ、説明資料62、63ページ、4款衛生費、1項保健衛生費、2目予防費、13節委託料727万2,000円の予算をお願いするものでございます。

また、同じく感染症予防事業ですが、乳幼児の定期予防接種につきましては、市が負担しておりますが、里帰り等で県外で受ける場合は今まで保護者の負担でした。令和2年度から、その接種費用を助成することといたしましたので、20節扶助費として59万6,000円を計上しております。年間十数件を見込んでおります。

簡単ですが、以上、説明を終わります。よろしくお願いたします。

○分科会委員長（光成良充君） 以上ですか。

それでは、執行部のほうの説明が終わりましたので、これから質疑を受けたいと思います。

まず、予算書7ページの第2表にございます債務負担行為と8ページの第3表地方債について、これについて質疑を受けたいと思いますが、質疑はございませんか。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会委員長（光成良充君） それでは、ないようですので、次に歳出の款ごとに進行させていただきますと思いますが、よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会委員長（光成良充君） では、52ページから53ページまでの2款総務費について、質疑はございませんか。2款総務費3項の戸籍住民基本台帳費ですね。

○分科会副委員長（原田素代君） 歳入歳出一緒ですよ。

○分科会委員長（光成良充君） はい、あわせての。

ここはないですか。

○分科会副委員長（原田素代君） じゃ、ちょっと聞きたい。

○分科会委員長（光成良充君） 原田副委員長。

○分科会副委員長（原田素代君） 予算書の53ページのコンビニ交付ですが、1年たちましたよね。実績がわかれば、どの程度利用率があったのか、教えてください。

○市民課長兼協働推進課長（稲生真由美君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 稲生課長。

○市民課長兼協働推進課長（稲生真由美君） コンビニ交付の交付枚数ですが、住民票、印鑑



証明、税証明、戸籍、それから戸籍の付票を合わせまして、4月から1月末の10カ月で160件でございます。

○分科会副委員長（原田素代君） はい。

○分科会委員長（光成良充君） 原田副委員長。

○分科会副委員長（原田素代君） この数字は、担当者の方からごらんになってどうなんでしょうか。予想内なんでしょうか。もうちょっとふえると思ってたんですか。

○市民課長兼協働推進課長（稲生真由美君） はい。

○分科会委員長（光成良充君） 稲生課長。

○市民課長兼協働推進課長（稲生真由美君） もう少しふえて多いほうが当然いいとは思っております。

○分科会副委員長（原田素代君） 承知しました。

○分科会委員長（光成良充君） 他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会委員長（光成良充君） では、ないようですので、次に58ページから71ページまでの3款民生費について質疑はございませんか。

○分科会副委員長（原田素代君） はい。

○分科会委員長（光成良充君） 原田副委員長。

○分科会副委員長（原田素代君） 58ページの委託料の一番下、子どもの学習・生活支援事業委託料なのですが、これについて教えてください。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○社会福祉課長（原田光治君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 原田課長。

○社会福祉課長（原田光治君） こちら、子どもの学習・生活支援事業委託料につきましては、平成30年度と今年度、試験的な事業としまして直営で山陽小学校の小学校3年生を対象に実施しております。実施してる理由としましては、家庭環境に恵まれない家庭では、家庭学習が十分にできないという生活、困窮者自立支援事業の中にも1つとしてあるんですけれども、ということ解消するために始めておるものでございます。今年度の取り組み状況としましては、2学期の毎週金曜日の放課後にそういった子たちをピンポイントに集めることは難しいので、一応学校全体に声がけとしまして、今年度は山陽小学校をモデル校としまして取り組んでまいりました。取り組み状況は、割と評判も良好ということで、今後の展開、拡充等を考える上で、社会福祉協議会には既存ではほかの困窮者の事業を幾つか委託しておりますので、それとあわせまして委託実施していただくという方向性を出したことから、今回委託料として予算計上をしているものでございます。

今回、モデル事業としてその後の展開につきましては、ちょっと今後考える検討予知がある

んですけども、事業内容としては今申し上げたような内容になります。

○分科会副委員長（原田素代君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 原田副委員長。

○分科会副委員長（原田素代君） たしか子供の貧困法のメニューの中に、子供の学習支援というのがあって、それは例えば今モデル事業で山陽小学校の3年生、週1という御説明でしたけど、例えばほかの学校もしくは地域で子供の学童クラブであるとか、そういったところで、これ委託料って恐らく学習を教えてくれる人に対するお支払いなんだろうと想定するんですけど、そういうマンパワーを生かせるような事業ができるっていうのがたしか貧困法にあるんです。それがでもまだ国正さんがいたころだから、そのときに使いたっていったら、ちょっとすぐに今赤磐市でできないとおっしゃってたのが今恐らくモデル事業で既に行われ始めたことなんだろうと思うんですけど、これは貧困法でうたわれてるわけですから、そういったお子さんたちが集まる場があって、そこにこういう事業を使えるようになるというふうに思っているのでしょうか。ことしは無理なんだろうけど、そういうメニューだったと理解しているんですけど、そういうふうに理解しているのでしょうか。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○社会福祉課長（原田光治君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 原田課長。

○社会福祉課長（原田光治君） 根拠法としましては、生活困窮者自立支援法がありまして、その中のメニューの1つにあがっていると思います。いわゆる地元とか各学校で、地域の地区のほうで取り組みとしてやられてるものとか、さまざまな形態が考えられるんですけども、今ちょっと市としてやっていますのは小学校を場所を選定して、そこで週末に家庭学習がなかなかできないので宿題を一緒にやって、週末家庭で親子で過ごす時間をふやしてもらうですとか、宿題が済んだ状態ですので週明けにまた学校に楽しく来てもらうとかとか、そういった趣旨でやっておるんです。事業展開としましては、いろいろ方策としては考えられるかと思います。

○分科会副委員長（原田素代君） ちょっと1つ。

○分科会委員長（光成良充君） 原田副委員長。

○分科会副委員長（原田素代君） 今、事業展開としてはいろいろ考えられるというふうにおっしゃったのは、例えばじゃあ申請があつて貧困にかかわる問題で、そういう学習支援が必要と思われる場合は対応ができると思っていんですね。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○社会福祉課長（原田光治君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 原田課長。

○社会福祉課長（原田光治君） 今、市が出してる方向性としましては、社会福祉協議会に委託という格好ですので、その委託事業の中で今山陽小学校だけですから、市内のもう少し取り

組む学校をふやすとか、そういう展開は考えられると思います。

○分科会副委員長（原田素代君） ありがとうございます。

○分科会委員長（光成良充君） 福木委員。

○委員（福木京子君） 今の問題ですけど、社協の関係でやってるんですけど、学習とかそういう子供のあれですから、教育委員会との連携があって、その辺は密にさせていただいて、モデル地域なんだけど、こういう事業をやってるということで全体でわかるような状況にはしてるんですよ。その辺、ちょっと確認したいと思います。

○社会福祉課長（原田光治君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 原田課長。

○社会福祉課長（原田光治君） このモデル事業の取り組みに際しましては、当初に学校の校長先生とまず協議しまして、こういう事業が受け入れ可能かどうか、その周辺の調整をしまして実施しております。現状での実施体制としましては、今直営で主にりんくステーションという相談支援センターの職員、または社会福祉課や子育て支援課の職員何名かでっております。その中には、教職員のOBとかがおりますので、そういったものを中心に実施しているのが現状です。

以上です。

○分科会委員長（光成良充君） よろしいですか。

他にございませんか、民生費。

松田委員。

○委員（松田 勲君） 資料説明のほうはいいんですけど、54ページ、2目の児童扶養手当なんですけど、これは説明をさっき僕聞き漏らしたんかもわからんですけど、4,824万円ほど前年に比べて下がっているんですけど、これはひとり親家庭に対してのあれだと思うんですけど、これ無償化になったことによって、それと関連はしてるんでしょうか。ちょっと教えていただきたいんですが。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 馬場課長。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 児童扶養手当のほうですけども、まず無償化とは関係はないです。

それから、前年比に比べて減額となってる理由なんですけれども、児童扶養手当の支給する月、それが令和元年度に支給月が変わりまして、これまで4カ月に1度で支払いを実施してたんですけども、2カ月ごとに支払うことになりましたので、令和元年度だけ支給月が多くなると思いますか、回数がふえた関係で、今年度は通常の手払い額に戻りまして、前年に比べて減額となっているという形になっております。

以上です。

○委員（松田 勲君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） そういうことでわかったんですけど、今まではさっき言った4カ月に1回が2カ月に1回って、いただくほうにとってはすごいありがたい話だと思うんです。ただ、これはやっぱり普通に考えたら手数料としてはふえるんですよね。手続のそういった雑用とか振り込みとか、そういったことを考えると、ふえるんだけどというふうに考えてもいいんですよね。その負担をふやしてでも、回数がふえたということですか。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 馬場課長。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 松田委員がおっしゃられるとおりです。事務的な作業はどうしても回数が増えられたことになってふえることになります。

以上です。

○委員（松田 勲君） はい。

○分科会委員長（光成良充君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） 一応確認です。これは国の制度によって変わったんですか、市独自ですか。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 馬場課長。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） これは国の制度によりまして支給月を変更としました。全国一律のものです。

以上です。

○分科会委員長（光成良充君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） ありがとうございます。

もう1件、同じページなんですけど、4目の児童福祉施設の中で、3節保育園運営費事業のところで、先ほどここに1億2,000万円ぐらいふえとるから何じゃろうかなと思ってたんですけど、あすなろの関係が2年間かけて改築されるというか、増築されるというかだと思うんですけど、それはいいことだと思うんですけど、さっき少し言われたんが、幼保一体型のようなことを言われたんですけど、もう1回説明をいただきたいんです。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 馬場課長。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） あすなろ保育園は、今保育所として運営してるんですけれ

ども、この改修工事にあわせて幼保連携型認定こども園に施設形態を変更する形を計画しております。

ちなみに、幼保連携型認定こども園というのは、イメージとしては今桜が丘にあります同じ社会福祉法人が経営しているいちょうの森認定こども園と同じものに変えるということをイメージしていただければいいと思います。

以上です。

○分科会委員長（光成良充君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） ちょっとその話は初めて聞いた。あすなろ保育園がすごい手狭で早く増築するなり、移転するなりという話はちょっと聞いたことがあるんですが、幼保一体型にするというのは聞いたことがないんですけど、これはもう市としても認めたということですか。というのは、すぐそばにひかり幼稚園がありますよね。どうされるんですか。ひかり幼稚園も今多いけど、だんだん無償化によって幼稚園が減ってくると思うんです、正直なところ。そういう中で、すぐ隣に近いところにあるわけですから、それだったらあすなろに皆預けようかになってきたら、ひかり幼稚園の存在価値というか、あそこも建てかえをして、始めて何年、そんなにたっていないと思うんですが、その辺の教育委員会とのやりとりも大丈夫なんですか。地域のほうも大丈夫なんですか。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 馬場課長。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 松田委員がおっしゃられることはよくわかります。ただ、岡山こども協会さんが計画されてる今回の大規模改修ですけれども、先ほど定員20名増と申しましたけれども、定員20名増につきましては、基本的には3歳未満のクラスを増とすることを考えているようです。ただ、幼保連携ですので、幼稚園部門のクラスはできますけれども、それは今のところでは10人程度のクラスという形で計画されています。そういう点もありまして、特に桜が丘のニーズに対してはマッチしているのではないかと子育て支援課のほうでは考えております。

以上です。

○分科会委員長（光成良充君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） いや、ちゃんと地元説明もされてるんですか。いや、僕は正直、これが加速して幼稚園に行かれてる方がそちらに行かれるんじゃないですか。大体、幼稚園は3歳からになってるけど、保育園があすなろに行ったらそのまま通常上がると思うんです。そのまま上がっていくと思うんです。まず、そのまま受けるのが普通だと思うんです、子供にとってもかわいそうですし、そういったことを考えて、今の桜が丘のひかり幼稚園があふれて入れん状態なら理解できるんですけど、これからだんだん無償化が始まってから、だんだん保育園

に行かれる方がふえてくるんじゃないかと予想される中で、向こうの東の方にも認定こども園ができてまだ2年そこらでしょ。それからというたら、そんなにたっていないのに、そういうふうにする必要があるのかどうか、その辺はどうなんでしょうか。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○保健福祉部長（入矢五和夫君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 入矢部長。

○保健福祉部長（入矢五和夫君） 委員おっしゃられることもわかるんですけど、全体的に桜が丘を考えたときに、やはり受け皿が不足ぎみということがございます。それから考えますと、少しでも、今当然定員を超えて受けていただいとるような施設もございますから、そのあたりを考えますと、市としても少しでも受け皿が確保できるということでございましたら、当然地域や他の保育事業者等とも連携は調整はしていただかんといけんのんですが、そのあたりはだめというような話にはならないというふうに考えています。

○分科会委員長（光成良充君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） いや、聞きたいのが周辺の当然連合とかそういったところにも話はできてるんですか。話は、連絡というんか、報告はしてあるんですか。してはいけないということはないでしょうけど、してあるのかどうかです。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 馬場課長。

○子育て支援課長（馬場弘祥君） 松田委員が言われてる地元との協議につきましては、岡山こども協会が実際運営に関して地元のほうにどの程度説明しているかというのは、市のほうは一緒に参加している形ではないので、ちょっと状況がわかりません。

○保健福祉部長（入矢五和夫君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 入矢部長。

○保健福祉部長（入矢五和夫君） ここで予算のほうはないとこれからやる計画ができたときに動けないので、当然予算書のほうには上げさせていただいております。それで、確定をしたら、当然地元のほうともしっかりお話ししていただけるもんだと思います。うちのほうも、そのあたりはよく確認をして、支援が必要な場合はさせていただきたいというふうに思います。

○委員（松田 勲君） もう1個。

○分科会委員長（光成良充君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） 教育委員会とも連携をしっかりとられてるんですね。いや、関係するでしょ、教育委員会も。大丈夫なんですね。

○保健福祉部長（入矢五和夫君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 入矢部長。

○保健福祉部長（入矢五和夫君） 教育委員会と直接話をしたかどうかというのは、ちょっと済みません、うちのほうも伺っていないとこなんですけど、当然そのあたりは今後進めていくところでございますし、先ほど申しましたように、受け皿自体が不足しているということでございますから、教育委員会ともしっかり連携をとって子育てを全体として盛り上げていくという方向で進めれるというふうに思っています。

○分科会委員長（光成良充君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） 余り要望を言うちゃあいけんのですけど、この前の、さっきの予算の中にもある放課後児童クラブの件もありますし、我々も全く知らないとこですと出てるという中で、やっぱりそういう話がぽっと出たときに説明もできないし、擁護もできないし、もう少し予算化される前のある程度のそういった情報とかというのは出せないもんなんですか、説明とか。もういきなりぽんと出るもんなんですか、ちょっと教えていただきたいんですけど。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○保健福祉部長（入矢五和夫君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 入矢部長。

○保健福祉部長（入矢五和夫君） 情報もある程度固まりましたらできますが、今回はきょう初めて皆さんのほうに説明等も出させていただいたということでございます。内示とか補助金が取れる、取れない、そのあたりもでございますから、余り早くというのはちょっとしにくい部分もでございます。ただ、出せれる段階になりましたら、なるべく早く出させていただくように心がけたいというふうに思います。

○分科会委員長（光成良充君） 他にございませんか。いいですか。

それでは、会議の途中でございますが、2時30分まで休憩をとりたいと思います。

午後2時21分 休憩

午後2時30分 再開

○分科会委員長（光成良充君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

質疑の途中で今切りましたので、質疑から始めます。

○分科会副委員長（原田素代君） 民生費でしょ。

○分科会委員長（光成良充君） はい、3款民生費についての質疑を受けます。

福木委員。

○委員（福木京子君） 緊急通報システムの説明があったんですけど、61ページです。61で緊急通報の関係、いろいろ説明がありました。でも、このやり方を変えるんですから、もうちょっと何か文章なり、わかりやすい説明をしていただきたいなあと思うんです。ずうっと説明はあったんですけど、どうなるのかなあというふうに説明を聞いて思うんです。それで、これは予算が406万6,000円増額して、そういうことを民間に委託して24時間体制でやるんですけど、説明だけ受けてもわからないんです。具体的にどうなるんですか。もう1回、ちょっとわかり

やすく説明していただきたいのと、それから設置台数が200台、これは合計がこれまでの分で200台で、今回今年度は20台購入ですね。そのやり方というのは、もう個人がその分は買ってお金を出して、出す制度は変わらないんですね、それは。ちょっとそこの辺の説明をお願いします。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○社会福祉課長（原田光治君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 原田課長。

○社会福祉課長（原田光治君） やり方としまして、今現在赤磐消防本部の通信指令室に緊急通報を設置する家からボタンを押しますと、直接通報が入るようになっております。その直接通報が消防署の通信指令室に入っておりますが、それを完全委託の受信センター方式の緊急通報に変更しようとするものです。既存の設置してる緊急通報システムがありますので、それはそのまま生かせる状況で考えております。現在、受信設備が消防本部の指令室の中にありますが、そちらが約5年で更新時期に来てることもございます。指令室の体制としまして、通常は指令室は救急ですとか、火災ですとか、そういう救急の通報を受けるようになっていますので、そういった通報が入ったときと、このいわゆる緊急通報システムの通報がバッティングしますと、なかなか対応に苦慮することも想定されるですとか、あとは利用者側としましても、誤報とか今押していいのかなとか、そういったためらいがちになることも現状あるということ、それから緊急のトラブルがあってもトラブルがあったということで直接消防署のほうに通報が入る状況ですので、その中間にワンクッションかますような形で、そういったいろんなことをひっくるめて一旦通報が入ってお受けして、その中でその内容が緊急性があるものか、ないものかさび分けをしていただいて、本当に緊急性のあるものについては消防署のほうへ通報するというような流れをとろうとしております。現状で、緊急通報だけなんですけども、こちらは委託することによりまして、通信試験ですとか、あと相談的なことですとか、幅広く対応もできると。受け手側としましては、保健師等の専門の資格を持った者も常駐しているということで、そういったほうへの切りかえを考えたということで、予算計上してるものです。その機器類の関係等につきましては、従来どおりの取り扱いとなっております。

以上です。

○分科会委員長（光成良充君） よろしいですか。

福木委員。

○委員（福木京子君） そしたら、予算が406万6,000円ふえてるというのは、ここを見たら委託料が338万円ですね。だから、この分が余分に今回この制度をするために予算をふやしたということですか。

○社会福祉課長（原田光治君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 原田課長。



○社会福祉課長（原田光治君） 委員がおっしゃるとおりです。

○分科会委員長（光成良充君） 他にございませんか。

○委員（福木京子君） いいですか、じゃあ。

○分科会委員長（光成良充君） 福木委員。

○委員（福木京子君） 福祉タクシーの件、福祉タクシーのところがありますね。62ページです。福祉タクシーが750万円なんですけど、昨年が690万9,000円で何ぼかふえてるんですが、この辺の活用状況と、それから宇野バスの循環バスなんかもう一応休止したりという状況もあつたりで、少し非課税世帯だけ、これは条件がありますね。条件をもう少し緩やかにするなりして、この制度を充実させるというふうなことは考えなかったんですか、この予算は。ちょっとそこをお願いします。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○社会福祉課長（原田光治君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 原田課長。

○社会福祉課長（原田光治君） 福祉タクシー事業の750万円ですけども、利用率としましては今手元で把握する数字で74.5%となっております。この当初予算につきまして、今年度と比べて大きく運用形態ですとか、運用方法の変更は予定しておりません。これが福祉制度としてやってる関係上、交通弱者対策といいますよりは、どちらかというとお年寄りの閉じこもり防止ですとか、外出を少しでもしてもらおうというような意味合いでの制度となっておりますので、移動支援という意味合いで制度拡充という御質問でしたら、ちょっとそういった関係とのすり合わせが必要になるかと思えます。現状で、この福祉のほうで計上してる予算としては、ちょっとニュアンスが違うということをお理解いただきたいと思えます。

○分科会委員長（光成良充君） 福木委員。

○委員（福木京子君） 質問するたびにその答えはございますけど、結局移動手段というたつて、高齢化社会になって閉じこもりがちになるのを公民館活動とか外出して、そういう住みやすいまちづくりということでは一緒なんです。だから、縦線じゃなくて横線で検討していただいて、何らかの方法の充実、この分を考えるのが大切なんじゃないでしょうか。その辺はどうなんでしょうか。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○社会福祉課長（原田光治君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 原田課長。

○社会福祉課長（原田光治君） 横線という御意見を頂戴しました。そういった関係部署との協議が必要でありますとか、あとこちら現状では全額一般財源で対応しておりますので、その他の事業と重ね合わせての見直しですとか、そういうことが必要になってこようかと思えます。ちょっとこの場では即答はなかなかできない部分もあるんですけども、十分その辺は考

えていきたいと思ひます。

○分科会委員長（光成良充君） よろしいですか。

○委員（福木京子君） はい。

○分科会委員長（光成良充君） 他にございませぬか。

○分科会副委員長（原田素代君） はい。

○分科会委員長（光成良充君） 原田副委員長。

○分科会副委員長（原田素代君） 説明資料でいきますと、46ページの買い物支援見守り事業のところなんですけれども、これは結構力を入れて夢百笑と熊山のほうの一部有志の方で買い物バスを仕立てて、ここで言うところの独居高齢者の見守りとあわせてやる事業として進んでおりますが、まず買い物支援バスがどの程度運行と雇用、契約をされていくということですから契約件数、そういう状況の中で減ってるというのがちょっとびっくりなんですけれども、ふえていかないと困る事業だなあと思ひていて、その辺買い物バスの問題と、今回これがちょっと減ってることについての事情などについて御説明ください。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○社会福祉課長（原田光治君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 原田課長。

○社会福祉課長（原田光治君） 御質問が買い物支援見守り事業の関係のバスという言葉で聞かれたんですけど。

○分科会副委員長（原田素代君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 原田副委員長。

○分科会副委員長（原田素代君） 私の思ひ違いなら訂正していただければいいんですけど、夢百笑と熊山のほうに車が提供されて、買い物支援の車が軽トラックが動いているんじゃないかと思ひんですけど、その事業のことではないかと思ひたんですけど、済ませぬ、もう1度お願いします。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○社会福祉課長（原田光治君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 原田課長。

○社会福祉課長（原田光治君） NPO法人の夢百笑のほうと小野田ふれあい市場への2カ所に移動販売用の軽トラックを改造したものを貸与しまして、事業展開をしていただいているものです。登録された方については、途中でやめることなく、基本的にはずっと継続されてると思ひますが、地域性といひますか、はっきり確認できてないんですけども、自然減による利用者減によって、ここでは予算的にはマイナスになってるというふうには思ひております。

○分科会副委員長（原田素代君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 原田副委員長。

○分科会副委員長（原田素代君） 要するに、買い物支援と見守りとあわせて順調に事業としていってるんですかということが聞きたいんです。ちょっと厳しいという話も、採算性が割れるということも聞いてますけど、その辺りとして何かてこ入れするとか、もしくはそれぞれの団体が何かこんなふうにしていこうと思ってるのか、要するにこの事業はまだずっと続いていくのか、いかないのか、その予算なのかどうかということを知りたいわけです。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○社会福祉課長（原田光治君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 原田課長。

○社会福祉課長（原田光治君） 今年度が2年スパンの契約の最終年度になっておりまして、今回両団体に意向確認しまして継続しますということで聞いておりまして、そのための予算計上です。ただ、現状では両団体とも稼働範囲と稼働能力とそれぞれ限界もありますので、今やれる範囲内の中でやっていただいている状況です。

あと、運営については厳しいということは常々聞いておりまして、ただ委託料として見守り業務委託料で計上してる金額があるんですけども、こちらが1件当たり何ぼということでお支払いとんですが、これ従前は150円だったのが今単価が250円にアップしているところではございます。引き続き、現状見守っていくということになろうかと思えます。

○分科会副委員長（原田素代君） 心強いです。ありがとうございました。

○分科会委員長（光成良充君） 他にございませんか。

福木委員。

○委員（福木京子君） 64ページの成年後見制度利用支援費が昨年比べてふえてきていることは、やっぱりそういう対象者の人もふえてきていると思うんですが、どのくらいふえてきているんですか。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○社会福祉課長（原田光治君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 原田課長。

○社会福祉課長（原田光治君） 成年後見制度で、こちらで予算計上してますものは、いわゆる経済的理由等々で市長申し立てによる成年後見制度に係る経費を計上しております。

それで、年に何件か申請がありまして、増加傾向にあるかといえば件数的にはそんなに大きくないんですけども、既存の件数が継続しておりまして、それにプラスアルファ出てくるということで、今5件から7件ぐらいと記憶しとんですけども、現状で、年に二、三件は出てきている現状がありますので、その件数全体で10件分程度を予算上は見込んでおります。

○分科会副委員長（原田素代君） はい、わかりました。

○分科会委員長（光成良充君） 他にございますか。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会委員長（光成良充君） それでは、なければ、次に71ページから78ページまでの4款衛生費についてを議題としての質疑を受けたいと思います。

質疑ございますか。

○分科会委員長（光成良充君） 岡崎委員。

○委員（岡崎達義君） 今、コロナウイルス対策でいろいろ問題を抱えてられると思うんですけど、この間も赤磐市のマスクの保存状況が何ともお粗末なというんか、さみしい状況だったんですけど、これ予算ではどこへそういうのは出てるんですか。当然、上がってると思うんですけど、マスクとかいろいろな備品ですね、緊急事態のときの、どこに入ってるんでしょうか。

○健康増進課長（石原万輝子君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 石原課長。

○健康増進課長（石原万輝子君） その件の予算は、危機管理ということでくらし安全課のほうで対応していると思います。健康増進課のほうでは予算計上しておりません。

以上です。

○委員（岡崎達義君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 岡崎委員。

○委員（岡崎達義君） 全くこっちの厚生の方では関係のないということで、ここへ医薬材料費なんていうのが1万7,000円ほど出てるんですけど、こういうのは全く関係ないんですね。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○健康増進課長（石原万輝子君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 石原課長。

○健康増進課長（石原万輝子君） その件、医薬材料費については、保健センターで行います事業に使用します消毒剤とか、今も玄関に設置しておりますようなアルコール消毒液とか、保健センターにかかわる消耗品を計上させてもらっております。

以上です。

○委員（岡崎達義君） ありがとうございます。

○分科会委員長（光成良充君） 他にございませんか。

福木委員。

○委員（福木京子君） マスクの件が出たから、それはちょっと言いたいけど、これはやっぱり3,000枚では赤磐の段階では少ないんじゃないですか。1,000枚だったんか。やっぱりこういう状況というのものもあるんで、今増産で大変で国のほうが指示して、特に病院関係には配布するんでしょうけど、日ごろの備えということで今回の分でももう少し検討していただいて、ちゃんとそういう対応ができるように何らか考えていただきたいなあということでお願いをしときま

す、それは。

私、質問をしたいのは火葬補助金の600万円の件ですけど、説明はいただいたんですが、これはまだ細かいことは余り決まってない云々ということなんですけど、これどういうふうになるんですか。予算だけ平均2万円掛ける300人というて、こういうふうな出し方でいいんですか、そもそも。それで、この辺の打診というのは、各地域とかそういうところに何らかのあれはされてるんですか。もう今回ばつとこういうふうに出されたんですか、ちょっとその辺をお聞きしたいんですが。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○環境課長（大窄暢毅君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 大窄課長。

○環境課長（大窄暢毅君） 火葬補助金でございます。こちらにつきましては、積算の内訳につきましては、先ほど御説明したとおりでございます。まだ、地域とかその辺のほうにお話はさせていただいておりません。事務レベルでの協議検討中ということでございます。

以上です。

○委員（福木京子君） いいですか。

○分科会委員長（光成良充君） 福木委員。

○委員（福木京子君） こういう新しいのを出すんですしたら、いろんな資料が要ると思うんです。どういう金額になって、岡山市はどうなって、こういう現状があるから、こういうふうに変えたいというある程度の資料とか説明、口頭だけの説明じゃあ、本当ひど過ぎるんじゃないですか。これ、最初聞いた本会議で行本議員が質問して、悪いけど、ようわからない説明だったんですけど、これでは熊山地域の人はこのぐらいの説明じゃ納得しないんじゃないでしょうか。そこをどういうふうに今後説明されるのか、どういう考えでこういう案を出されたのか、ちょっとそこを聞きたいんです。

○分科会委員長（光成良充君） 答弁を求めます。

○環境課長（大窄暢毅君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 大窄課長。

○環境課長（大窄暢毅君） 今の現状でございます。要綱案、その辺のたたきと申しますか、案は作成しつつありますが、その細部をまだ文言等も含めまして今協議中でございます。説明等につきましては、今後制度が固まっていけば、当然委員会のほうでも御報告をさせていただいて進めていきたいというふうには考えております。

金額のことでございます。1件当たり2万円の補助ということでございます。先ほども御説明したとおり、過去の状況を見ますと、500件中、大体7割から8割までいきませんが、7割程度の人が岡山市の東山斎場、それから同じく岡山市の西大寺斎場、こちらの利用が多いということでございます。先ほども言いました料金がそれぞれ4万5,000円、3万5,000円というこ

とですので、2万円の市民負担をお願いするということから平均値を出しております。そういったことで、御理解をいただきたいと思ひますし、当初予算に計上させていただいた経過につきましては、担当課といたしましても、機動的にこの制度を運用開始を進めていきたいという思いがございます。概算ではございますが、予算計上させていただきまして、早急に制度をきっちり構築させていただいて、御説明もさせていただきながら、御意見等もいただきながら、制度をつくっていきたくて考えております。そういうところで、御理解をいただきたいと思ひます。

以上です。

○分科会委員長（光成良充君） 福木委員。

○委員（福木京子君） いやあ、やっぱし聞いても、その予算の出し方はおかしい。この制度を本当に早くしてほしいというのは、ずっと何年も前からあれですよ。それにしても、そういう細かいことがまだ決まらなくて、予算だけぽつと出して、こんなやり方はおかしいんじゃないですか。ある程度煮詰まらして、もうその前によく説明して、そして意見を聞いて、ある程度のいいことになって予算を出すんじゃないんですか。いや、これ本当にびっくりします、こういうやり方というのが。納得できないです、進め方自体が。いい制度はわかります。誰だって早くしてほしいというのはみんな思っています。だけど、予算の出し方はおかしい。絶対おかしいです。それに、熊山地域の方はもうこれ負担がふえるんですよ。よくわからん。1件が2万円補助というのは。

○分科会副委員長（原田素代君） 補助、2万円負担。

○委員（福木京子君） 2万円負担ですか、補助という。

○分科会副委員長（原田素代君） 市民が負担。そういうことですよ。一律にする。その差額を市が払う。

○委員（福木京子君） だから、それにしても熊山地域は一気に変わるんですよ、差が。じゃあないのか。だから、そこの理解が私はできにくいです。一律……。

○分科会副委員長（原田素代君） だから、負担がふえる、熊山が。

○委員（福木京子君） でしょう。そのことを言っているんですよ。だから、そのことはやっぱり理解をさせていただいて協力していただかないと、なかなかできないですよ、これ。そりゃ、標準化するの当たり前ですよ。これは合併したら、徐々に徐々に理解していただいて、どこかで合併するんですけどね。私はもうこういう出し方は理解できないですね。

○環境課長（大窄暢毅君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 大窄課長。

○環境課長（大窄暢毅君） 特に、熊山地域の取り扱いについての御説明をさせていただきたいと思ひます。

熊山地域につきましては、今和気北部衛生施設組合という一部事務組合に管内扱いとして焼

却のほうはできるようになっております。大人1体当たりは1万2,000円の利用料金で火葬のほうができるというような状況でございます。2万円というのが市民負担の上限を2万円というふうに設定しようと今のところ考えておりまして、1万2,000円の料金で済むんで、2万円の上限には達しないと。その差額の取り扱い等につきましては、激変緩和等を考えて経過措置を入れていくかどうか、その辺も重々慎重に協議中でございます。先ほども御説明いたしました機動的な運用開始を図りたいというようなことから、今回当初予算に計上させていただいておりますので、その辺そういった点で御理解をいただきたいと思っております。

以上です。

○市民生活部長（作本直美君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 作本部長。

○市民生活部長（作本直美君） こちらの事業につきましては、もうかねてより本会議、それから委員会でも御意見をいただいております。さらに昨年度、岡山市の東山火葬場が利用料金が上がったというところで問題が顕在化、明らかにその辺が出てきたというところがございます。このタイミングもでございます。かねてより全く研究を私たちがしていなかったわけではございません。他市の状況とか補助の状況、そのあたりはお示しはしておりませんが、内部的には非常に資料も集めておりまして、ここを構築するに当たってのものは今きちんとまとめていっているところでございます。そうしたところで、きちんと積算ができて出すのが本来ではないかという御意見もごもっともだとは思いますが、とりあえず概算的なもので一度制度設計をさせていただくと。さらに、補正で上げるという形もありかとは思いますが、まず年度の当初にもうこういう計画ありきで本年度は進んでいきたいというところをお見せした上で、概算でも一応設計金額は持っております。さらに、そこを精査して、やはりある程度きちんとした形のものになったところでスタートという形に持っていきたいというところもございまして、今はっきりともう全てのことを細かに御説明できる段階ではございませんが、本年度当初予算としてまず上げさせていただきたいという心で出させていただいているところでございます。委員の皆様には、そこのところは御理解いただけたらと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○委員（福木京子君） いいですか。

○分科会委員長（光成良充君） 福木委員。

○委員（福木京子君） わかりません。わかりません。そんな予算の出し方はおかしい。私はおかしいと思います。それでどうということ、熊山も1万2,000円で当分いくんですか。標準化だから、もう2万円に上げるというのは既定の事実になって進めるんじゃないんですか。

○環境課長（大窄暢毅君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 大窄課長。

○環境課長（大窄暢毅君） 熊山地域につきましては、1万2,000円の利用料金で和気北部衛

生施設組合で利用できるということでございます。市民の方の負担を2万円ということでございます。2万円に達しませんので、別に負担がふえるということではございません。1万2,000円で御利用いただくということで現在のところは考えております。

以上です。

○分科会委員長（光成良充君） 福木委員。

○委員（福木京子君） その標準、平均2万円というのはどういうふうに考えたらいいんですか、どの時点で。

○市長（友實武則君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 補足説明いたします。

火葬場の市民負担は、現状の負担額を軽減していきたいというのが基本です。一律の基準として、1体当たり2万円ということにさせてもらおうと、それを目標として定めてます。和気の北部衛生施設組合へ行っている方、対象は熊山地域です。ここについては、組合の火葬費が現在1万2,000円でその1万2,000円の差額8,000円を徴収するつもりはございません。組合が火葬費を値上げするなり何なり、そうすれば2万円を超えた時点でその超えた部分が補助対象になります。そういったことで、熊山地域については2万円以下になりますけども、そこは現状を維持して激変を緩和していきたいというつもりでおります。そういったことで、今概算的な方向性で予算を出させていただいているのは、非常にわかりにくいかもしれませんが、このあたりを御理解いただいた上で、御協議いただければと思います。よろしく申し上げます。

○分科会委員長（光成良充君） 福木委員。

○委員（福木京子君） そしたら、熊山はもう現状維持ということなんですけど、激変緩和を今後はしていきたいというのは、組合のほうで使用料は決めるから、そこで議論をして値上げになれば、それが同じようになってくるということを見とるということですね。

○分科会委員長（光成良充君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 誤解があつてはいけないので、もう1つ補足します。

北部衛生施設組合は、赤磐市も一部事務組合で私は副管理者です。今の私の説明の中で、北部衛生施設組合が利用料金を値上げありきのように聞こえたのであれば、訂正をしてください。値上げありきではございません。これから、いろんな経済状況等を見て、どうなっていくかわからない部分の中での説明でございます。私としては、副管理者としては1万2,000円をできるだけ上げないように、そういう努力はしていきます。しかしながら、今後わかりませんので、先ほど言ったような言い方をさせていただいております。誤解のないよう、お願いします。

○分科会委員長（光成良充君） 福木委員。

○委員（福木京子君） それならわかりました。そういうふうに市民に御説明できますし、こ



これは実施はいつぐらいからするんですか。そういう要綱とか細かいのはいつの時点でわかるんですか。

○環境課長（大窄暢毅君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 大窄課長。

○環境課長（大窄暢毅君） 先ほども従来から説明させていただいております、早急な時期にやっていきたいと思います。協議検討の状況にもよりますが、少なくとも、年度の前半ぐらいにはこぎつけたいというふうに担当課としては考えております。早い時期にやっていければと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○分科会委員長（光成良充君） よろしいですか。

○委員（福木京子君） はい。

○分科会委員長（光成良充君） 他にございませんか。

○委員（松田 勲君） ちょっと1個だけ。

○分科会委員長（光成良充君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） 説明資料では65ページなんですけど、7目の子ども医療費の中で、自己負担ですけど、中学生は無料で高校生が医療費負担になっておりますけど、予算的には前年度とほぼ変わらないんで安堵はしとんですが、中学生までと高校生の金額の割合というのがわかれば教えてほしいのと、高額医療はこの中にどのくらいが高額医療であるのか、わかれば教えていただきたい、予定されてるのかということ。わかります。

○分科会委員長（光成良充君） よろしいですか。答弁を求めます。

○健康増進課長（石原万輝子君） はい。

○分科会委員長（光成良充君） 石原課長。

○健康増進課長（石原万輝子君） 高校生については、1,300万円を予定をしております。それ以外が中学生まで無料の金額ですが、それでよろしいでしょうか。

○委員（松田 勲君） 高額がわかれば。

○健康増進課長（石原万輝子君） 高額……。

○委員（松田 勲君） 年齢でいったら、大体今ごろ例えば500万円超えとる人が何人ぐらいおるとか、1,000万円超えとる人。

○健康増進課長（石原万輝子君） 濟いません、そのあたりはわかりません。

○委員（松田 勲君） 国保か、わかりました。

○分科会委員長（光成良充君） 他にございませんか。

福木委員。

○委員（福木京子君） 火葬のところで、和気北部とそれから柵原との金額というんか、負担金が大分違って、これは計算があるんですよね、世帯数とかいろんな分の計算があって、和気北はもう倍、柵原、吉井とは倍ぐらいな負担金を出してる、その辺の計算はどんなんか、現状

をちょっと確認をしたいんですが。

○環境課長（大窄暢毅君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 大窄課長。

○環境課長（大窄暢毅君） 柵原、吉井、英田火葬場施設組合とそれから和気北部衛生施設組合の負担金の差についてのお話でございます。

まずもって、負担金の算出につきまして、柵原、吉井、英田火葬場施設組合につきましては、まず均等割が20%、それから人口割が40%、利用割を40%で100%の負担割合を出しております。それから、和気北部衛生施設組合につきましては、負担割合は均等割が30%、人口割が30%、残りの40%が利用割ということでございます。それぞれ規約によりまして、この負担金の算出がでございます。柵原、吉井、英田につきましては、委託業務によって火葬場の運営をしているということでございます。そういったとこ、それからそれぞれの施設によって施設の状況、それからかかる経費等々が違うところがございますので、負担金の差も出てきているということでございます。和気北に関しましては、本会議のほうでも若干説明があったかもわかりません。組合予算の総額経費が今回特に1,182万円、予算総額の規模が上がっております。これ何かといいますと、火葬炉関係の修繕を初めとしまして、今回施設設備の改修、外壁塗装でありますとか、雨漏りの改修、それから大きいものでホールのエアコン修繕とか、こういったものを計画しているというところから、予算規模が上がっております。そういったところも影響して和気北のほうが高くなっているということで御理解いただきたいと思えます。

以上です。

○委員（福木京子君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 福木委員。

○委員（福木京子君） 説明いただいてありがとうございました。

和気北のほうは、桜が丘の東の世帯も入ってるわけですよ。だから、人口的には、パーセントはこうですが、大分この辺で違うんですよ。その辺はどう考えたらいいですか。

○環境課長（大窄暢毅君） 委員長。

○分科会委員長（光成良充君） 大窄課長。

○環境課長（大窄暢毅君） 福木委員おっしゃるとおり、桜が丘東の地域も入っております。記憶でございますが、1万1,000ぐらいの人口割算定に入っていたと記憶しております。そういうところも若干影響しているのかなというところは考えております。

以上です。

○分科会委員長（光成良充君） よろしいですか。

他にございませんか。ありませんね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会委員長（光成良充君） それでは、なければ、次に122ページから123ページの12款公

債費のうち住宅新築資金等貸付事業分について質疑はございませんか。

あるんですか、公債費ですよ。

○委員（福木京子君） もう過ぎたらいけませんね。

○分科会委員長（光成良充君） はい。

○委員（福木京子君） 広域水道企業団の関係は、ここは関係ないのかな。

○分科会委員長（光成良充君） それは……。

○委員（福木京子君） 厚生は関係なかったですかね。

産建、はい、わかりました。

○分科会委員長（光成良充君） では、公債費のところはよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会委員長（光成良充君） それでは、なければ、これで質疑を終わります。

以上で当分科会の審査は全て終了いたしました。

なお、委員長報告については委員長に一任していただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会委員長（光成良充君） それでは、そのようにさせていただきます。

皆様方には、本日は長時間にわたり大変お疲れさまでございました。これで予算審査特別委員会の厚生分科会を閉会といたします。

本日は大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

午後3時8分 閉会